

牛久：学校周辺に見る自然

第4号 ひたち野みずべ公園（ひたち野うしく小）

2019年4月22日発行

＜ みずべ公園で、春の生きもの観察。～①樹木 ＞

みなさん、こんにちは。今年度の理科支援も始まり、さっそく4月15日（月）にひたち野うしく小4年1～3組と、16日（火）には4～6組とみずべ公園で春の生きもの観察をしてきました。最初に話したとおり、3年生の時に学んだ生きものの「色・形・大きさ」、「どこで何をしていたか」に注目し、季節ごとにどれだけ成長し、いつ頃どのようにして仲間を増やしていくかなど、観察していきましょう。



さて、今回はまず、樹木から見ていきましょう。広場に入ると、木々の芽吹き、さくらやクヌギの花などの美しい風景が目に入ります。見たままを絵や写真に残せたらといつも思いますが、なかなかむずかしい。

右はしの木がヤマザクラです。もう少し、近づいてみましょう。

いかにも春らしい、花と芽吹き風景。



花と葉が同時期に開く、ヤマザクラ。開きだした葉は、赤茶色していることが多い。

第1号でもお話ししましたが、さくらの仲間にはソメイヨシノのように葉が開く前に花が咲くものと、ヤマザクラのように花と葉が同時期に開くもの、ウワミズザクラのように葉が開いてから花が



咲くものがあります。ヤマザクラの場合は、花といっしょに開き始める新しい葉が赤茶色していることが多く、遠くから見てもそれと分かる美しさです。また、ソメイヨシノは同じ地域ではいっせいに咲き、いっせいに散っていきますが、ヤマザクラは早く咲くものから遅い時期に咲くものまであり、花の色も木によって微妙に違います。

風に舞う、ヤマザクラの花びら。



花が終わるころ葉が開き始めるひたち野うしく小のソメイヨシノ(左)と、同時期かやや花が早いオオシマザクラ。



3月下旬に花盛りのオオカンザクラは、ほとんど花は終わっていて、緑色の小さな実がふくらみだしていました。夏にはどのくらいの大きさで、どんな色になっているのでしょうか？また、花にはヒヨドリやメジロが蜜を吸いに集まっていますが、実を食べるものはいないのでしょうか？オオカンザクラは、実を食べられて損をするだけなのではないでしょうか？などと考えながら、観察を続けていきましょう。

緑色の小さな実がふくらみはじめたオオカンザクラ。



一方で、ようやくこれから咲き始めようとしているさくらもあります。ウワミズザクラや、イヌザクラです。ウワミズザクラは穂のような花の集まりの下の方に、新しい葉がすでに開いていますが、花はまだつぼみです。これが咲き始めると、あたり一面、甘い香りが漂い、ハエやハチ、ハナムグリの仲間が集まってきます。この日は、気の早い？メスアカケバエがたくさん集まっていました。

つぼみが穂のように集まった下に、新しい葉がすでに開いているウワミズザクラ。

色や大きさは違いますが、ヤマブキやユキヤナギも、さくらと同じバラ科の仲間。花のつくりをよく見てみましょう。



バラ科のヤマブキ(左)とユキヤナギ(右)。



穂ほのような雄花おぼなをぶら下げのイヌシデ(左)とアカシデ(右)。



めばなめばな 穂ほ。めだたないが、雌花も小さな穂をぶら下げている。



黄色い穂ほのような雄花おぼなの集まりをぶら下げた、イヌシデもありました。よく似たアカシデは、赤っぽい穂ほをぶら下げています。雌花めばなの集まりは小さくて目立ちませんが、やはり穂ほのようにぶら下がります。くわしくは、24年度57号を参考に。

学校にもありますが、クヌギやコナラなどドングリのなる木も、雄花おぼなは穂ほのようになります。

穂ほのような雄花おぼなをぶら下げるクヌギ。雌花めばなは葉のつけ根に。



えだえだ 枝がたれ下がるシダレヤナギ(左)と、湿地に見られるタチヤナギ(右)。

ヤナギなかまの仲間えだは、大きなアカメヤナギと枝がたれるシダレヤナギ、カワヤナギ、タチヤナギがあります。花の咲く時期も違い、カワヤナギは3月下旬(23年度81号のヤナギ)、シダレヤナギやタチヤナギは4月、アカメヤナギは一番遅く5月です。5月中旬から、白い綿毛わたげをもったタネがたくさん飛ぶのは、アカメヤナギです(30年度15号を参考に)。同じヤナギといっても、葉の形や花など、少しずつ違いますね。ちなみに、上のユキヤナギはバラ科で、ヤナギなかまの仲間ではありません。同様に、ビヨウヤナギえだも枝がややたれてヤナギえだの枝に似ますが、オトギリソウ科でこれもヤナギなかまの仲間ではありません。ややこしいですね。



鳥が実を食べてタネを運ぶミツバアケビ(左)と、ハチなどに多くの花粉をつけるしくみをもつヒイラギナンテン(右)。

最後に、花が咲いていたほかの樹木を紹介します。ミツバアケビがヤマザクラの枝にからみついでいました。甘い実になるアケビですが、鳥も大好きで、食べられてタネを運んでもらい、仲間を増やしています。その近くにヒイラギナンテンが咲いていました。甘い匂いがただよ、ハチをよんでいました。この花には、ハチなどに花粉をつけやすくするしくみがあり、できるだけ多くのよいタネを作ろうとしています。



ヒサカキの雌花(左)と、雄花(右)。それぞれ木が別で、たくわんのようなへんな臭いを漂わせる。

たくわんのような臭いを漂わせていたのは、ヒサカキの花。雄の木と雌の木があり、それぞれ雄花だけ、雌花だけをつけます。



こちらも雌の木と雄の木が別のアオキ。雄花には退化した雌しべのあとがあり、どのように進化したのか興味深いです。また、小さなハエやハナアブの仲間がきて蜜や花粉をなめていることがあり、私には分からないけどこの花にも臭いはあるのか気になります。

【理科支援員：宮内】

アオキの雌の木(左)と、雄の木(右)。それぞれ雌花だけ、雄花だけをつける。